

主催挨拶



日本医師会会長
横倉 義武

皆様、こんにちは。日本医師会会長の横倉義武でございます。

平成25年度医療政策シンポジウムの開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

あと、11年余り、2025年には、日本の経済成長を牽引してこられた団塊の世代のすべての方々が後期高齢者となり、わが国は高齢化のピークを迎えます。残された時間に全国津々浦々まで、かかりつけ医を中心として医療と介護が連携した、しっかりとした地域医療提供体制を確立しなければなりません。

国民との約束である「社会保障・税の一体改革」の実行に向けて、社会保障の財源を賄うために4月から消費税が8%に引き上げられます。また、十分なものではありませんが、平成26年度診療報酬改定と新設された医療提供体制の改革のための新たな財政支援制度が実施に移されます。枠組みが整い、まさに医療提供体制の改革がスタートの第一歩を踏み出します。

ところが、最近の規制改革会議など内閣に設けられた会議においては、医療分野を「岩盤規制」と称して過度の規制緩和を求めてお

り、憂慮すべき状況になっています。私どもは、時代にそぐわなくなった医療周辺分野の規制を、国民のニーズに合わせて見直すことは賛成です。しかし、医療本体に係る規制は別です。国民の命と健康を守るために必要な規制はきちんと峻別して、慎重に考えていただきたいのです。

医療や医薬品に対しては、安全を守るために政府による適切な規制が必要です。決して、「事後監視救済型・事後調整型」であってはなりません。

また、医療における競争は、医学の研鑽と医術の研修において行われるべきで、よりよい医療を提供するため、医師として切磋琢磨すべきです。社会保障の大きな柱である医療は、価格に基づく競争をすべきではありません。

国民の健康を守ることと、経済の成長は表裏一体であります。しかし、経済成長の手段として、医療の本体に市場原理を導入することは、世界に誇る国民皆保険を損ねかねないものであり、厳重に監視していかねばなりません。

日本医師会は、地域医療が置かれた現実をしっかりと見据え、地域自治体と密接に連携して、地域医療ビジョンを描き、地域における医療と介護の改革に向けて具体的にどう取り組むのか、また、地域包括ケアシステムの構築のために医療の専門職集団として何ができるのか、真に国民に求められる医療提供体制の実現に向けて、医療における改革とイノベーションを積極的に提案し主導して、国民とともに努力してまいる決意です。

この時期に、「高齢社会と医療の未来を考える」をテーマにして、このシンポジウムが実現いたしましたことは、意義深いことと思います。

関岡英之先生、土居丈朗先生、中村秀一先生は、作家あるいは経済学者として、また、

医療と介護と福祉の研究機関を主宰されるなど、これまでのご経験を生かして、医療の未来のために目覚ましい活動を展開していらっしゃると思います。

先生方には講演に、引き続きパネルディスカッションに参加いただき、経済の低迷と高齢化が進行する中で、高齢社会と医療の未来についてどう考えるか、忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

実りある成果を収めることを祈念するとともに、先生方の多大なるご協力に厚く御礼申し上げます。

結びに、本日ご来会の皆様方の一層のご活躍、ご健勝を祈念いたしましてご挨拶いたします。